

1998年の技術成果について



常務取締役
菅原 晟
Akira Sugawara

クーリングシステム事業部、パワーシステム事業部およびサーボシステム事業部の各事業部がこの一年間に達成した技術開発、製品開発の成果がここに集大成された。これらの技術成果は、低騒音化、小型化、高効率化、高信頼性、環境保全および安全性などなどを達成することによって、まさに山洋電気が目指すべき三つの技術の方向に沿ったものとなっている。

また、これらの技術成果は製品となってすでに市場に投入され、または今後新製品として市場に投入されて第2次中期経営計画の達成に貢献するものと期待される。

さて、技術開発や新製品開発はその必要性においてとどまるところを知らない。最近では、製品のライフサイクルがますます短くなってきており、タイムリーな新製品開発と市場投入を行なうことが特に重要となってきた。したがって、第2次中期経営計画で計画されたさまざまな技術開発や新製品開発計画に対して、必要に応じた優先順位の見直しを行なうと共に、状況に応じて新しい企画を立案し「選択と集中」により効率良い開発・製品化を図っていかねばならない。

お客様にとっての価値創造型の製品の重要性がいわれるようになって久しい。お客様にとっての価値とは、ある場合は価格、ある場合は機能、またある場合は信頼性であり、価値判断はお客様によってさまざまに変化する。また事業領域によってもその価値判断は変わるだろう。技術者がこれらを把握し、適切な判断のもとに技術開発や製品開発に活かすことが肝要である。

すでに第2次中期経営計画は第2年目を迎えた。1998年の技術成果はこの計画達成の一翼を担うものであるが、今後さらにお客様にとって価値ある技術と製品を提供できるよう技術開発と新製品開発に注力していきたい。